

スイカ (露地) (黒ボク土)

〔土壌肥料〕

本作目は、栄養生長と生殖生長が同時に進行し、収穫に向け山型に吸収するタイプである。生育前半は初期成育を、後半は果実生育を考慮した施肥が必要である。根は浅根性であるが冠水条件に弱いので、高畝にするなど作土層を深くし、排水性、通気性を良くする必要がある。なお、リン酸は基肥で対応し、窒素およびカリは分施主体の施肥設計をたてる。

〔病害虫・雑草防除〕

土壌病害対策として、耐病性台木を利用する。クロルピクリンによる燻蒸はマルチ畝内処理を行い、薬剤投下量を削減する。地上部病害に対して、うどんこ病・べと病耐病性品種を作付けする。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材施用技術	<p>土壌診断に基づいた低成分含量堆肥（稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの）の施用を基本とする。</p> <p>肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。</p> <p>緑肥作物を利用する。</p>	<p>堆肥 2～3t/10a</p>
化学肥料低減技術	<p>基肥は局所施肥（条施肥など）するとともに、窒素、カリについては追肥型の施肥法をとることを基本とする。</p> <p>肥効調節型肥料と速効性肥料とを組み合わせ、養分吸収特性に対応した肥料成分の供給を行う。</p> <p>有機質肥料による施肥を行う。</p>	<p>成分量で施肥基準以下</p> <p>有機質肥料併用の場合には、化学肥料低減率20～50%</p>
化学農薬低減技術	<p>微生物農薬を利用する。 （対象：うどんこ病、ネコブセンチュウなど）</p> <p>対抗植物（クロタラリア、ギニアグラス等）を利用する。 （対象：ネコブセンチュウ）</p> <p>育苗期に防虫ネットによる被覆を行う。 （対象：アブラムシ類など）</p> <p>抵抗性台木を利用する。 （対象：つる割病など）</p> <p>光反射マルチを利用する。 （対象：アブラムシ類、ウイルス病、雑草）</p> <p>マルチ栽培を行う。 （対象：雑草）</p>	<p>慣行使用回数の20%削減</p>
その他の留意事項	<p>生育後期の養分供給と良好な根系発達を確保するために、下層施肥（深層施肥）も有効な施肥法といえる。この場合には堆肥と有機質肥料などを混合し、下層に条施することが有効である。</p> <p>盛土などが行われている圃場では、その客入土壌の改良を行う。</p> <p>台木により、吸肥力や土壌pHの適応性が異なる点に注意する。</p>	

スイカ (施設) (黒ボク土)

〔土壌肥料〕

本作目は、栄養生長と生殖生長が同時に進行し、収穫に向け山型に吸収するタイプである。施設栽培では、収穫後の土壌には養分が残存しやすいため、他作目との組み合わせなどをはかり、過剰な養分の蓄積を回避する必要がある。なお、リン酸は基肥で対応し、窒素およびカリは分施主体の施肥設計をたてる。

〔病害虫・雑草防除〕

土壌病害対策として、耐病性台木を用いる。クロルピクリンによる薫蒸はマルチ畝内処理を行い、薬剤投下量を削減する。地上部病害に対して、うどんこ病、べと病耐病性品種を作付けする。罹病果の早期除去などの耕種的防除に留意する。なお、開口部、サイドの防虫ネットは開花が始まれば、被覆を外す。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材施用技術	<p>土壌診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。</p> <p>肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。</p> <p>緑肥作物を利用する。</p>	<p>堆肥 2～3t/10a</p>
化学肥料低減技術	<p>基肥は局所施肥(植穴施肥、条施肥など)とする。</p> <p>肥効調節型肥料と速効性肥料とを組み合わせ、養分吸収特性に対応した施肥成分の供給を行う。</p> <p>有機質肥料による施肥を行う。</p>	<p>成分量で施肥基準以下</p> <p>有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20～50%</p>
化学農薬低減技術	<p>微生物農薬を利用する。 (対象：うどんこ病、ネコブセンチュウなど) 対抗植物(クロタラリア、ギニアグラス等)を利用する。</p> <p>(対象：ネコブセンチュウ) 天敵農薬を利用する。</p> <p>(対象：ハモグリバエ類、アザミウマ類など) 抵抗性台木を利用する。</p> <p>(対象：つる割病) 夏季に太陽熱土壌消毒を行う。</p> <p>(対象：土壌病害虫、雑草など) 近紫外線除去フィルムを利用する。</p> <p>(対象：ハモグリバエ類など) 開口部やサイドを防虫ネットで被覆する。</p> <p>(対象：アブラムシ類など) マルチ栽培を行う。</p> <p>(対象：雑草) 光反射マルチを利用する。</p> <p>(対象：アブラムシ類、ウイルス病、雑草)</p>	<p>慣行使用回数の20%削減</p>
その他の留意事項	<p>生育後期の養分供給と良好な根系発達を確保するために、下層施肥(深層施肥)も有効な施肥法といえる。この場合には堆肥と有機質肥料等を混合し、下層に施用することが有効である。</p> <p>多量の灌漑水による除塩は慎み、クリーニングクロップを用いるよう心がける。</p> <p>盛土などが行われている圃場では、その客入土壌の改良を行う。</p> <p>台木により、吸肥力や土壌pH適応性が異なる点に注意する。</p>	